



緑の屋根



伊勢崎市立宮郷第二小学校 学校通信 第12号 令和3年9月17日(金)

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について

5月27日に小学校6年生を対象として全国学力・学習状況調査が実施されました。その結果が返却されましたので、本校の傾向と課題、今後に向けた取組等をお知らせします。

1 調査の目的

児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することにより、成果と課題を検証し、その改善を図る。

2 調査内容及び手法

(1) 教科に関する調査

国語及び算数の2教科

小学校5学年までに含まれる指導事項で、身に付けておかなければ影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠である知識・技能、また知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力等を一体的に問うこととし、出題形式は記述式の問題を一定割合導入しています。



【 問題に取り組む6年生 】

(2) 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

3 国語について

(1) 本校の傾向

全体では、全問正答を100ポイント比率に換算して、全国の正答率より3.3ポイント、群馬県の正答率より3.0ポイント、共に上回る結果となりました。学習指導要領の内容別に正答率を見て、全国より高かったのは、「書くこと」が5.8ポイント、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が4.9ポイント、「読むこと」が1.9ポイントでした。全国より低かったのは「話すこと・聞くこと」で0.7ポイントでした。また、本校の「無解答率が低い」(空欄が少ない)という結果は、6年生が日頃から「簡単にはあきらめずに、ねばり強く取り組もうとしている姿勢」の現れであると考えられます。比較的よくできていた問題には次のようなものがあります。①自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える。②文の中における主語と述語との関係を捉える。③目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約する。④目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える。⑤文の中における修飾と被修飾との関係を捉える。⑥学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。⑦思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う。

(2) 課題と今後に向けた取組

正答率が低かった問題には次のようなものがあります。①資料を用いた目的を理解する。②目的や意図に応じ、資料を使って話す。③目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。④文章全体の構成をとらえ、内容の中心となる事柄を把握する。⑤目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける。

これらの結果から、次のようなことを「本校の課題」として今後、授業改善に取り組んでいきます。

- 児童が、「相手意識」「目的意識」「問題意識」をもって、主体的に学習活動に取り組めるようにすること。
- 「資料」や「図表」を正しく読み取れるようにすること。また、自分の考えをより分かりやすく伝えるために、活用できるようにすること。
- 文章中から「キーワード」や「キーセンテンス」を見付けながら要点を捉え、話の中心や要旨を捉えられるようにすること。
- 「理由」や「根拠」を明らかにしつつ、相手意識をもちながら話したり書いたりする学習活動を意図的に取り入れること。



【 電子黒板を活用した授業 】

4 算数について

(1) 本校の傾向

全体では、全問正答を100ポイント比率に換算して、全国の正答率より0.8ポイント、群馬県の正答率より2.0ポイント、共に上回る結果となりました。学習指導要領の領域別に正答率を見て、全国より高かったのは、「図形」が4.0ポイント、「データの活用」が2.9ポイント、「変化と関係」が2.4ポイントでした。全国より低かったのは「数と計算」で2.2ポイント、「測定」が1.9ポイントでした。また、本校の「記述式の問題の正答率が比較的高い」という結果は、低学年のときからの「考える」授業の積み重ねや家庭学習の成果によるものだと考えます。

比較的良好にできていた問題には次のようなものがあります。①二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積を求める。②集団の特徴を調べるために適切なデータを選ぶ。③直角三角形の面積を求める。④データを二次元の表に分類整理する。⑤分速540mのバスが2700m進むのにかかる時間を求める式を書く。⑥帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く。⑦速さを求める除法の式と商の意味を理解する。⑧2コースの道のりの差を求める。⑨500m歩くのに7分かかるとを基に、1000m歩くのにかかる時間を求める。⑩棒グラフから項目間を読み取る。⑪30mを1としたときに、12mが0.4に当たるわけを書く。

(2) 課題と今後に向けた取組

正答率が低かった問題には次のようなものがあります。①8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める。②午後1時35分から50分後の時刻を書く。③余りのある除法の商と余りを基に、23個のボールを6個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を求める。④直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ。⑤棒グラフから数量を正しく読み取る。

これらの結果から、次のようなことを「本校の課題」として今後、授業改善に取り組んでいきます。

- 学習内容を、自分たちの生活に結び付けて考えられるようにすること。また、長さ、かさ、重さ、広さ、速さなどの確かな（豊かな）量感を日常生活の中で養っていけるようにすること。
- 言葉や数式、図表、グラフなどを正しく読み取り、その意味を理解できるようにすること。
- 既習内容を想起させ、筋道を立てて説明したり論理的に考えたりできるようにすること。

